音声記録の反訳

録音日：2023(R5)0706

反訳者：野村一也(請求人)

[野村]

はい、お電話代わりました。坂野です。

富岡、野村です。お世話になります。あのね、見ました。ちょっと、契約書の中に、確かに、自動更新という条文があるのは確認しましたんで。ちょっと、これについては、言いたいことがあるんですけど、長くなのでやめておきます。

[坂野]

はい。

[野村]

それをよしとして。ちょっと、根本的な問題で・・・坂野さんに開示してもらったときに・・・文書を見ながら、指摘をしてることなんですけど、令和3年の7月28日に、対応報告書がある。

これ今、気付いたけど、米田さんが中心となって話をして、それを坂野さんが処理した。実務は坂野さんが処理した。窓口になったのは米田さん。その要望に対して処理したのは、どうやら坂野さん、読み取るにね。

[坂野]

令和3年ですか？

[野村]

令和3年の4月26日。

[坂野]

処理したっていうのは、どういう処理ですか？何の書類のことを言ってますか。

[野村]

あのね、いろんな要望を賃借人が言ってくるわけですよ、「こうして欲しい」「ああして欲しい」と。それに対して、米田さんは、「いや、こういう問題があります」ということを、言って、「自分では答えられない」ってことになってるんですよ。

[坂野]

ええ。

[野村]

自分では答えられない。その上で、処理をしたのは、坂野さんと副町長と町なんでしょう。きっとね。

[坂野]

どうするか決定したのは、私達だっていうことですね。

[野村]

米田さんは「何も自分で判断できない」と言ってるから、記録上もね。その中で米田さんが言ってることは、あの人は、真っ当なこと言ってる・・・

[坂野]

はい

[野村]

真っ当なことを言ってる、人に貸したいと、いや人に貸すのはね、ちょっと公益上問題があるということを、あの人が言ってるよ。

「素人考えで申し訳ないが、第三者への転貸を認めるとなると、現在年間7万円程度の賃借料により、契約をしている中で、例えばそれ以上の金額で、もっと高い貸すことによって・・・」

貸すことが可能になるわけで、当然高くなりますよ。

特定の人が、町有財産を利用して利益を上げることを、書面上、容認してくる懸念が出てくる。この人の言ってること、本当に素人だけど、誰もが思いつく「それは問題がある」なんてことは、当然のことであって。当然

のこと。でも、米田さんは、自分では、何もできないから、報告を受けた
までしかしてないんですよ。それを実務として処理したのは、あなたで
すよ。あなたと副町長ですよ。推測するに。課長、あんまり、このよう
なことわかってないから

[坂野]

推測の話ですか。

[野村]

流してもらって、構わない。反発しなくていいから。僕の推測は、否定し
なくていいよ。

[坂野]

(笑)

[野村]

あくまで推測だから。でね・・・

[坂野]

だから、あの、明日いらっしゃるんですかね？

[野村]

行きませんよ、こんだけの文章しか出ないんだったら。何か、証拠を取る
ために行くかもしれませんがね。この文章の・・・

[坂野]

すいません。ちょっと、はっきりしてもらいたいんですけども、明日来な
いんですか？

[野村]

明日？

[坂野]

ええ。

[野村]

あのね、そのための話を今してるんです。行く必要があるかないかの話を。

[坂野]

そうなんすか。

[坂野]

ええ。さっきの令和3年の4月の文書。ぼくが言ってるのは、米田さんは真つ当なこと言ってる。第三者に貸して利益を上げることに問題がある。問題あるんですよ。

それが公益上、公益上、認められるものだったらいいですけど、「住宅に何の公益があるの？」の話なんです。ちょっと、これ言えば、そもそも、その前の契約書では転貸禁止の条文があったにもかかわらず、それをあなた方が認めてるよ。米田さんが言ってる通り、どうでもいいってことを認めてるっていうことは、貸すことは、問題があるんです。

それをあなた方は、わざわざ契約を外してる、転貸禁止の条項を外してる。ちょっと遡れば、そもそも、建物を譲り受けた人が、登記ができないという認識があったにもかかわらず、あなたが認めている。住宅は駄目という条文があったにもかかわらず、あなた方は住宅を認めている。今回は、転貸ダメだったのを認めている。家賃を下げるということも認めてる、米田さんの判断ではないですよ。少なくとも米田さんではない。明らかにね。それやってるのは、あなたか副町長ですよ。

推測です。ただ、推測を裏付けるものとして、この地権者の話、今言ってる記録の中に、証言がある。「話は20年ほど前にのぼるが、私は騙されたと思ってる」これは狂言ですよ。狂言。文章を読めばよく分かる。分かる人が見ればね。「全財産を投げ打ってきたものを、解決策が見つからず、途方にくれていたところ、平成16年当時の総務課長さんが、店舗兼住宅敷地として、賃貸借契約を結べるようにしてくれた。」

これは、記録のある、公文書による証拠能力のある供述なんです。この平

成16年当時の総務課長さんって、山内さんですよ。山内さんがそういう便宜を図ってるんですよ、この記録によれば。そうすると、「今回の便宜も、山内さんがやったんだらうな」というのは、誰もが推測するところ。僕言ってるのは、推測だけれども、それなりの根拠がある推測なんです。

[坂野]

はい。結論としては、どうなりますか。

[野村]

結論としては、あなた方は、賃貸を、米田さんが言ってるのは、まっとうな話であるにも関わらず、あなた方は、「誰に貸してもいいですよ」という契約をしちゃったってことなんではないですかね？

何も町に打診することもなく、契約してもいいよと。そういう形をとってるってことで間違いないですかね？この僕がもらってる以降、何もそういう話がないということは、記録があるかないかはさておき、今の建物所有者が、町に、打診する必要はないと、理解して勝手にやってるんでしょうから。

あなた方が何も文章を残してないということは、そもそもそういう打診がなかった。この頃、令和3年の5月、令和3年の11月、12月に、私が文書をもらうまでは。さかんに町に打診していたにもかかわらず、それをあなた方が「何もしなくても。勝手に貸してもいいよ」と。

言葉はちょっと・・・明確すぎますけど、「町にいちいち確認しなくて、勝手に変えてもいいよということにしちゃってる」という理解で間違いないですかね？

[坂野]

前回、前回6月の、先月ですね。先月、開示した一部開示した中に、その方とのやり取りが残ってるはずなんでけども・・・

[野村]

ちょっと待ってください○

[坂野]

6月の19日でしたか。

[野村]

あなたが・・・送りつけたとき、

[坂野]

そうですね。6月12日付の一部開示決定通知書で開示した中に、やり取り・・・

[野村]

「建物の賃借人が変わるようなことがありましたら、連絡ください」ってことを、あなたが・・・これは発信者は誰？発信者は。あなた？

こんなの副町長は出さないからね。総務課長は何もわかってないから、あなただよ。米田さんか？

[坂野]

メール・・・メールですか？

[野村]

米田さんが出した文書で、「変わるときには連絡くださいね」という文書を22年の2月に出してるわけですよ？

[坂野]

ああ、そうです。

[野村]

その後、変わったわけですよ、賃借人が。

[坂野]

変わった・・・

[野村]

ちょっと待ってくれよ。「ご承知おきの通り、(不明)における第三者の建

物貸貸借については当庁の裁量の及ぶところではありません」というのは、米田さんがその前回までの記録で言ってることと、180度変わってるんですよ。

「素人考えだけど問題があると思う」と言ってることに対して、ここに書いてある米田さんの文章「当庁の裁量の及ぶところではありません。」というふうに、180度変わってるんですよ。これ、米田さんの判断じゃなくて、多分、上から、言われて、「ああそうか」ということで、言われてやってる内容ですよ。その裏はさておき。このね、22年、去年の、去年の2月の段階に、土地のこれ、これあくまでも土地の契約のことであって、今の賃借人が決まったのは、この後じゃないんですか？いま借りてる人、賃借人が、契約をしたのは、これよりも後じゃないんですか？

[坂野]

その文書の後ろの方に10月14日、4年の10月14日付の・・・あると思うんですけども

[野村]

この後ろに別文書がありますよね。

[坂野]

ええ。

[野村]

ここにね、「(不明)に貸す方が決まりましたので連絡しました。」当然ね、ここでどういう人に貸すのかを、あなた事を、もらってるわけですよ。

[坂野]

もらってます。

[野村]

これは何で文書として含まれないんですか？

[坂野]

この文章で聞いてますよ。

[野村]

ちょっと待って。これね。「FAXを送らせていただきました」これ、明らかに賃貸申込書ですよ、借りたいという人が素性を書いたものを、あなた方に送ってるんですよ。このね、10月の14日にね、

[坂野]

FAXは、その後ろか前かについてる1枚ものです。

[野村]

後ろか前かについてる1枚もの、別文書ってことですか？

[坂野]

いや、一緒の中に入ってると思うんですけど。電話対応報告書・・・

[野村]

ああ、中村さん宛てのね。・・・これだけ！？

[坂野]

はい。

[野村]

あなた方は、米最初に米田さんが、「素人ながら」と言ってること、「安い金額で貸して、そこで・・・公有財産で売り上げを上げることに問題がある」「公益性云々について、なんか問題があるから、誰にも貸すわけにはいかない」と言ってることは、真つ当なことですよ。これあなた方は二つとも、よしにしちやっってますけど、誰の判断？

[坂野]

ちょっと今、手元に文書がないので説明できないですけども、

[野村]

これ、副町長に明日同席させて。11時に行きますから。

[坂野]

いや、ちょっと今できない・・・

[野村]

なんで？

[坂野]

今、ご存知の通りですけども、報道とかで、その対応に追われていて、

[野村]

いつだったらいいんですか？いつでもいいですよ。副町長の話聞く。これ全部副町長ですよ。やってるのは・

[坂野]

その推測で（笑）推測で言う・・・

[野村]

何度も言ってる通り、推測を、誰もが、「そうであるだろう」と確信を持つ、推測する根拠はあるんですよ。「全部、副町長やってくれた」と。「全部、便宜を図ってくれた」と、

[坂野]

はい、

[野村]

書いてるでしょう？「副町長がやってくれたんだ」と、今の副町長が。当時の総務課長であるね。

[坂野]

ちょっとこの件は、ちょっと書類見てですね、私の方で説明できるのであれば、説明しますので・・・

[野村]

説明できないよ。じゃあね、ここに書いてる通り、米田さんがね、米井さんは何もわかってないよ。年も若いしね。でも話をしてて、ある程度、常識があるのは分かるよ。

米田さんが、常識があるのは分かる。記録に残ってる米田さんの対応は常識的なことだよ。でも、それを非常識な対応に変えたのは、米田さんじゃないんだよ。あなたも分かってるでしょうけど、あなたが自分の判断でやったものであろうが、人から言われてやったものであろうが、当然、やった者としての責任が伴う伴いますからね。あなたが仮に誰かに言われて、やったことであってもね。

[坂野]

判断をするにしてもですね、それを判断する根拠が、あるはずですよ。

[野村]

推測の話をしてるんですか？あなたは。あなたが言ってるのは。判断するのは、何の判断ですか？

[坂野]

先ほど野村さんが言った、第三者への建物の賃貸借についてです。

[野村]

第三者の建物について・・・判断・・・誰が判断したかという記録は何もないんで、聞いてるんです。米田さんではないのは明らかで。米田さんは、180度、言ってる内容が変わってるんですよ。前の記録から。

[坂野]

判断が変わった、その書類について、いま手元にないので、それを私の方で調べてですね、それを説明しますので、ちょっとお時間ください。

[野村]

少なくとも米田さんではない。その上にいるのは、あなたと、渡辺さんと、町長と副町長しかいないんですよ。渡辺さんは、申し訳ないけど何も分わかってないあの人。

[坂野]

だから私が説明しますので・・・

[野村]

ちょっと文章を探してください。そこまで180度変わった根拠。何度も言ってる文書・・・あなた方は何でもかんでも、記録を取らないで済ませてるけどね、ここに意思決定に至るものは、記録しないと駄目なんだよ。

[坂野]

分かりました。

[野村]

お願いします。

[坂野]

分かったら私から連絡しますので・・・

[野村]

まず特定してから連絡ください。お願いします。

[坂野]

ええ、分かりました。はい。